

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (東海)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3月21日をもってまん延防止等重点措置が解除される決定が発表されてから、19日にはマイカーによる観光客の動きが活発になり、通常年の90%ほどを取り戻した。しかし、観光バスはほとんど動いていない。
	◎	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除になり、来客数が伸びた。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・ワクチン接種の効果で、新型コロナウイルスの感染が収束に向かって良かったという客の声が多数あった。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・飲食関係はやや改善の兆しはあるが、以前と比べると戻っていないということであった。その他でも、なかなか消費マインドが上向いていないようである。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・客単価は低い、週末など人出が多くなってきた。
	○	百貨店（売場主任）	単価の動き	・3月前半はまだ旅行も行けないため、近場で食事をしてぶらぶら買物をする人が多かった。中旬になると、一層来客数が増えた。歓送迎会ができないため、餞別品の単価を少し上げて買物をしている客がいた。
	○	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の解除後は、日中、夜間とも明らかに人出が増加しており、積極的な消費活動が見受けられる。
	○	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が延長されてきたものの、3月中旬から来客数が前年を上回るようになってきた。
	○	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、少し来客数が増えた。来客数が増えると、販売意欲も高まり売上が増える。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除に伴って多少なりとも来客数、販売量は増えているが、本格的な回復にはまだ程遠く、新型コロナウイルス発生前の水準の80%程度で推移している。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の期間が終了して初めての土日は、前週以上に非常に混雑した。店舗のある駅でも、多くの利用客が見受けられた。
	○	コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・売上は速報値で前年比101.1%と平均値に回復した。まん延防止等重点措置の解除、株価上昇や良好な天候など小売業にとって好条件がそろい、3か月前と比べ期待感があるなかでの数値である。小売業にとっては非常に重要な指標であり、利益を確保できるほどマインドは確実に上がっている。
	○	コンビニ（店員）	来客数の動き	・暖かくなってきて、来客数が増えてきた。まん延防止等重点措置が明けたのも影響しているように思う。
	○	コンビニ（商品企画担当）	来客数の動き	・3月中旬以降は、平年と比較して暖かい日が続いたことから、まん延防止等重点措置の期間中であったものの来客数は増加傾向にあった。特に、レジャー・行楽需要に適したおにぎりやサンドイッチを購入する客が多くみられた。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売の方は、売れてはいるが生産が間に合わず納期がかなり遅れるため、どうしても受注に結び付かない場合が多い。受注残がかなり残っている状況である。
	○	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・問合せ件数が多く決めるまでの期間も早いため、全体的に流れとして良い。
○	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の解除で特に変わった様子はないが、少しだけ客足が戻ってきた様子である。前月よりも順調に受注が上がってきた。商品の入荷遅延は変わらず、受注はできても即売上にはつながらない。	
○	住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・住宅及びその他店舗、商業施設などでリフォーム、大規模改修物件の見積りや問合せが多くなってきた。	
○	高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少で、まん延防止等重点措置の解除前から徐々に来客数が回復傾向にあった。特に年度末や季節の変わり目による祝い需要から、週末の来客数の回復が顕著にみられた。	
○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が今月上旬に解除され、客の外出が増えるとともに来客数が増え、1月よりも来店頻度が多くなった。	

○	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・外国人客の宿泊も始まった。
○	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・一棟貸しの借上げ需要の減少が不安である。
○	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、若干だがレストランが動き出した。
○	旅行代理店 (経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたため、やや良くなっている。
○	旅行代理店 (経営者)	お客様の様子	・まん延防止等重点措置も終わり、暖かくなって外出客も多くなってきている。一方、コロナ禍を通じて対面でなければ購入できない物以外は通販やネットでの購入が進んでおり、消費は、モノの購入からコト消費に変わりつつあるように見受けられる。
○	旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・2年前から続いているコロナ禍だが、まん延防止等重点措置が解除され、春休みも重なって少し売上が伸びている。
○	旅行代理店 (営業担当)	販売量の動き	・観光・旅行業は間違いなく新型コロナウイルスの感染状況に左右される。第6波が少しずつ収束傾向になりまん延防止等重点措置が解除されると、個人旅行を中心に旅行申込みが発生している。ただし、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統や新しい新型コロナウイルス変異株で次の感染拡大の可能性があるため、また予約取消しが発生するのではとビクビクしながら営業している。
○	通信会社 (サービス担当)	販売量の動き	・引っ越しシーズンに伴い、転居先での光回線への切替えや光回線を利用するテレビサービスの注文が増加している。また、ADSLサービスの終了間近による光回線への変更や新規開局ビルの増加で、光回線の注文が増加している。
○	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・積雪が多かったので、まだ雪遊びができる。
○	美顔美容室 (経営者)	販売量の動き	・今年も人気のキャンペーンが始まった。例年購入してくれる客が今年も購入してくれている。
○	美容室 (経営者)	来客数の動き	・春になりイベントなどが段々と復活してきたため、それに合わせて来客数も増えた。
□	商店街 (代表者)	お客様の様子	・今月前半のまん延防止等重点措置が出ている間は人の流れもなく全く活気がなかったが、後半になりまん延防止等重点措置が解除されてからは一変した。今月トータルで見るとまだ景気は悪いが、少しだけ上向きになっている。
□	一般小売店 [高級精肉] (常勤監査役)	販売量の動き	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で不透明感がある。
□	一般小売店 [結納品] (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない限り、大変である。
□	一般小売店 [書店] (営業担当)	販売量の動き	・年度末の予算消化が終盤に向かっているので、この3~4か月は増加傾向であったが、ここで一旦停滞から下降傾向になると思われる。
□	百貨店 (計画担当)	お客様の様子	・コロナ禍の状況は変わらず、相変わらず感染状況によって来客数の上下が続いている。ただし、高額品の買上動向は比較的安定しており、富裕層の消費には特に減退は感じられない。
□	スーパー (経営者)	販売量の動き	・3か月前は初詣から毎年にごわう頃だったが、1月中旬にまん延防止等重点措置が適用されて伸び悩んだ。現在は解除されて来客数も回復しつつある。
□	スーパー (店長)	来客数の動き	・物価の上昇に伴い表面上は良くみえるが、消費者の所得が変わっているわけではない。ウィズコロナのなかで来客数の増加も見込めない。
□	スーパー (店員)	単価の動き	・みかんも終盤になり売れる季節物が特でない割には、順調に売上があった。まん延防止等重点措置は解かれたが、人々の意識として余り出歩かない影響が出ているのか、夕方以降の客足が伸びない。
□	スーパー (販売担当)	それ以外	・77円均一セールから100円均一セールに変更した。良い物をお買い得にという施策だが、売上は横ばいである。

□	スーパー（営業企画）	お客様の様子	・3か月前と比べて、来客数や客単価に大きな変化はみられない。
□	スーパー（販売担当）	販売量の動き	・店舗への来客数は増えているが、購買の拡大には必ずしもつながっていない感じである。
□	コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が21日まで継続し、前月と同様な傾向が続いている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・12月と比較すると、来客数は変わらないか、むしろ少ないが、今月は新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置が解除される動きとなり、月末に向かうにつれて春の行楽客や旅行客が少しずつ増え始めている。この影響で、米飯や飲料などの商品が月末に向けて上向きとなっている。
□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・売上は前年比102%程度をキープしており、数か月前からの好調さを継続している。店舗近隣に住む高齢者世帯の旺盛な消費にも支えられているほか、専用アプリ利用者や電子マネー支払の客が急増していることも、好調の要因と判断している。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されても、年配客はすぐに外出して買物しようという気持ちにはならないように見受けられる。
□	衣料品専門店（売場担当）	単価の動き	・来客数は増えていて、家族連れ客の来店もかなり多かった。ただし、単価がいつもほど上がっていない。皆春でいろいろ金が掛かるということで引締めに懸かっている、以前より金を使わなくなっている。単価が安い物が多かった。
□	衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・引き続き必要最低限の物の購入のみで、以前のような高額品の購入には至っていない。
□	衣料品専門店（販売企画担当）	来客数の動き	・来客数もずっと少ないままで推移している。ファッション品は総じて厳しい状況が続いている。介護用品は、動きはあるが増えてはいない。
□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車の納品遅れ、ガソリン値上げや中古車市場の高騰など、車関係全体でのマイナス要素が多い。
□	乗用車販売店（従業員）	それ以外	・販売台数は前年並みで推移しているが、納車まで半年以上掛かる車がほとんどで、いつ納車できるか分からないような車を販売している。さらに、メーカーの生産がすぐに止まり予定納期が大幅に遅れることが多く、約束した客にも大変迷惑を掛けている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年度末の決算期であるにもかかわらず、例年のような市場の動きを全く感じるができなかった。店舗では新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で営業しているが、やはり店内での活気を感じることはできない。今必要な用件が済めばよいと思っている客に新車の提案をしても、話に乗ってもらえない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・いつもなら決算セールで盛り上がる月であるが、肝心の商品である新車が半導体や部品供給遅れの問題で入荷せず、厳しい状況になった。ただし、中古車市場は大盛況で、トータルで見ると悪いながらも前年並みの実績を確保できており、ホッとしている。
□	その他専門店〔書籍〕（店員）	来客数の動き	・例年は忙しい時期であるが、学生たちは春休みに入り、まん延防止等重点措置が解除され新型コロナウイルスで我慢していた分レジャー代に流れる消費も多い。書籍販売は電子化で紙離れもあって厳しくなっている。
□	一般レストラン（従業員）	単価の動き	・新規感染者数が減らず、外食を控えている。
□	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除になり、ある程度上向きな傾向にある。
□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の解除により、取引先の飲食店の利用客が増えている。歓送迎会も、人数を絞っての開催ではあるが予約が入っている。
□	都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、レストラン、出張宿泊などは若干回復しているが、大幅な良化までは至っていない。全くなかった前月から比べると少し良くなった気がするが、大きな動きが出ていない。

□	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ブロック県民割を期待する予約がある。ただし、政府が幾らブロック県民割を推進していても、当県の場合旅行代理店は県内旅行しか取り扱えないので、全く販売に結び付かない。地元県民が県内の旅行店で北信越や中部圏の旅行を予約できるようになれば販売が広がるので、消費者にも声を掛けやすい。県民割を推進するならば、県内旅行会社からの予約を推進してほしい。旅行会社経由でも最終的にはホテル・旅館に予約が入るのだから、3回目のワクチン接種を推進するなら、必ず旅行会社経由での予約にすべきである。
□	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・旅行業収入としては1月から大きな変化はなく、出張関連の切符・宿泊のみで、観光要素のある旅行は皆無の状態である。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、夜の街は特にながららの状態だったのが、夜12～1時頃まで客が少しずつ戻っている状況になっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・悪いまま戻らない。
□	レジャーランド（職員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されて来客が戻りつつあるが、3か月前の12月と比べると変わらない。
□	テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、明るい兆しはある。
□	観光名所（案内係）	お客様の様子	・今月20日までは人出も少なかったが、21日過ぎからは人出が増えてきた。したがって、先が明るくなるのではないかと思う。
□	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・3月の入場者数は、前年と比べほぼ変わりなく推移している。3か月前と比べると入場者数は良くなっているが、12月の降雪の影響を考慮すると、景気としては余り変わってないと判断する。
□	その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	来客数の動き	・3か月前と変わりなく、おおむね低調な状況で推移している。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・2年間の新型コロナウイルスの影響で、客は本当に外出を控え、皆我慢してパーマも毛染めも余りしなくなった。
□	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	それ以外	・原価の高騰に尽きる。
□	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・売地が少なく、買主も少ない。土地の価格がなかなか下がらない状況で、先行きも不安である。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・コロナ禍も停滞させているが、販売は横ばいである。
□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	単価の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたので期待はあるが、見当が付かない。
▲	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・3月は決算月のため売上が伸びると予想していたが、12月の方が良かった。コロナ禍の終息を感じるほど新規感染者数が減っていた12月と増加傾向の3月を比べると、来客数や客の様子もどちらかというと厳しい状況にあり、3か月前と比べると少し悪くなっている。客自身が自粛しており、付き合いの幅を狭めている状況である。
▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、飲食店には少し客が戻ってきているが、飲料の販売は伸びていない。客は早めに帰る傾向にある。
▲	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・まだまだ日によって寒の戻りがあり、春物衣料品が苦戦している。また、ガソリン価格の高騰によるのか、車での来店客が減っている。株価の大きな下落もあり資産効果といわれる富裕層の高額消費は低調で、春休みの行楽需要なども新型コロナウイルス新規感染者数が依然として高い水準のため低調である。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の期間中は客足が伸びず、22日の解除後も増えていない。目的買いが多く長居はせず、回遊している様子も余り感じられない。通常であれば家族連れの客でにぎわう時期であるが、この状況では厳しい。

▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除される前から週末や夜間の外食が増えてきており、内食需要が減少している。加えて商品、ガソリンの値上がりや電気代の上昇もあり、買上点数が減りつつある。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が減少している。
▲	スーパー（店員）	単価の動き	・前月に引き続き売上は前年超えをしているが、値上げによる客単価アップによるもので、来客数、買上点数に関しては引き続き前年割れの状況である。
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数がなかなか減少せず、まだ外出をためらっている人が相当数いるようで、来客数がなかなか上がってこない。
▲	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・複数の客から、現在は忙しいが4月以降の仕事が決まっていないという話があった。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・例年3月は来客数が多く忙しいが、今年は少ない。前年に巣籠り需要で購入が進んだため、反動が出ている。
▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	来客数の動き	・3月に入って来客数が減少している。ウィズコロナといっても、命に関わる高齢の客は、経済活動より不安の方が勝っている。高齢の客のシェアが高い店ほど、厳しいのではないかと。
▲	その他専門店 [貴金属]（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたにもかかわらず、また、例年ならば春の陽気につられて人が出てくる頃であるが、商店街への人流が増えていない。
▲	一般レストラン（経営者）	それ以外	・まん延防止等重点措置が解除されたばかりで、景気状況としてはまだ動きが少ない。周囲の状況は、変わらないか、あるいはウクライナ情勢もあってやや悪くなっているようにも感じる。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が少ない。多くても3人、通常は1人という日がとても多い。
▲	バー（経営者）	お客様の様子	・コロナ慣れして、外出や外食をしなくてもいい状況にある。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きまん延防止等重点措置も緊急事態宣言もなかったため、非常に忙しい日々を送っていた。現在は、まん延防止等重点措置が解除された3月22日以降は徐々に戻っているが、3か月前の12月と比較するとまだまだで、やや悪くなっている。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・引っ越しシーズンで毎年3月は解約件数が増えるが、例年にも増して解約が増えている。一方で転入による新規契約は例年をかなり下回っている状況である。
▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新規工事でも、機器未入荷のため遅れが発生している。
▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・半導体不足も関係してか、機器の更改には慎重な姿勢がうかがえる。費用についても慎重になっている傾向がみられる。
▲	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置は解除されても、新規感染者数が増えてきており、土日以外の来客数は少ない。
▲	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きから、やや悪くなっている。
▲	理美容室（経営者）	来客数の動き	・客が余り来てくれない。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・やはり新型コロナウイルスの影響である。
▲	理容室（経営者）	それ以外	・いろいろと悪いことがありすぎる。
▲	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・本来は年度末で例年ある程度忙しくなる時期だが、今年は違うようである。
▲	設計事務所（職員）	お客様の様子	・客からは景気が良くなる話は聞かない。
▲	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築材料の単価が上がり続けている。
×	一般小売店 [生活用品]（販売担当）	販売量の動き	・例年3月はギフト需要などもあり年末に次いで売上の良い月であったが、まん延防止等重点措置の下で全く売上が伸びてこない。

	×	百貨店（業績管理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響を受け、来客数、売上共に3か月前から減少した。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で製造業の生産が止まっているため、もう何ともならない状態である。
	×	観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたとはいえ、法人客はもとより個人客も様子見なのか急激な予約増加とはなっていない。今回のまん延防止等重点措置は、本当に営業収入に大きく響いた。全社で悪かった前年を更に下回る見込みであり、食堂に至っては週1回の定休日を2回に増やさざるを得なくなってしまった。
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・今月は、新型コロナウイルスの影響で旅行の仕事は全くなかった。
	×	その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに加え、ウクライナ情勢を始めとした要因で物価や資材が急騰している。
	×	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	それ以外	・景気対策が進まず地域によっては経済の回復が遅れ、建設業、塗装業の2社が倒産、廃業した。同業者のなかでも生死が分かれつつある。体力のない会社は、ここに来て新年度が迎えられない。
企業動向関連 (東海)	◎	*	*	*
	○	化学工業（総務秘書）	それ以外	・まん延防止等重点措置の解除や春の到来により、街の様相は大きく変わり、外出を控えていた人々が街に出てきている。百貨店や飲食店は、感染防止対策の影響もあるが行列ができていく光景をよく見掛けた。ウクライナ情勢は、我が国にとっても他人事ではない恐怖であるが、それが景況感には現れてはいない。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・まん延防止等重点措置が全国的に解除になり、人流が戻ってきた。観光やホテル宿泊需要も回復しつつある。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・製造業に関しては今までとほぼ変わらない動きであるが、飲食店は、まん延防止等重点措置から解放されて営業時間が伸び、店も客も比較的動きが活発化している。
	○	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・法人、個人を問わず、投資物件の問合せが多い。
	○	不動産業（経営者）	それ以外	・例年同様に晴れの日が多く、新型コロナウイルス新規感染者数も減少傾向にあり、外出や遠出する人が徐々に増加傾向となっている。売上は前年を上回る状況が継続している。
	○	会計事務所（職員）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、外食する人が増えたように見受けられる。飲食店がほっと一息つく反面、材料が入荷せず工事を始められない建設業者の話も聞く。全体的には新年度を迎えることもあり、先への期待が高まっているように思う。
	□	窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・受注ベースが一定でなく想定外の急ぎの注文が入るため、計画は立てにくいですが、受注量としては多い。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北米地域向けの輸送経路が確保できない。また、電子部品の供給が滞っているため、引き合いや受注があっても納期が間に合わず失注してしまう案件も出ている。北米地域の自動車向け設備投資の引き合い自体は活発である。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスやウクライナでの戦争の影響は、今のところ余りない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で売上が減少しているなかで材料単価が高騰し、さらに円安が進み海外からの仕入単価が上がり、非常に困っている状態である。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・素材の値上げがあり売上金額は増加しているが、販売量はほぼ横ばいがまだまだ続いている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ウクライナで大変な事態が起きているのに、我が国はほとんどなく他人事のように相変わらずのんびりしている。

□	建設業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響とは別に、電子部品等の入荷が遅れている影響もあるが、どの業者でも客先の新年度予算が全体的に下がっていると言っている。具体的にどれくらいになるかは、まだはっきりとは分からない。
□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は本来繁忙期で忙しい状態が続いているはずが、自動車関連など一部業種では部品不足などの影響で荷動きが止まったりして、トータルでは3か月前と余り変わっていない。
□	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・航空貨物の需要は依然として高い。
□	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の荷動きは前年を下回っており、その流れが今月もまだ続いていて良くなる兆しはみえない。したがって、景気の動向は変わらず、変化なしで低迷している。
□	通信業（法人営業担当）	それ以外	・良い面としては完全失業率も多少良くなっており、地価も少しずつ上昇している。一方、ロシアのウクライナ侵攻に伴う小麦粉や原油等の価格上昇が庶民には響いている。結果的に余り変わらない。
□	通信業（法人営業担当）	取引先の様子	・官公庁の新年度予算成立を受け、競合他社の動きが活発になっている。これまで競合する企業は軒並み業界大手で顔ぶれに大きな変化はなかったが、昨今は異業種の大手と競合するケースが多発している。例えばコールセンター事業の入札に旅行代理店が参加してくるなど、コロナ禍で人流ストップのあおりを受けた企業の官公庁予算狙いのアクションが目につく。
□	金融業（従業員）	それ以外	・まん延防止等重点措置が解除となったが、まだまだ自粛モードが続いているように感じる。
□	金融業（企画担当）	取引先の様子	・ウクライナ問題により商品の流通が滞っていることや、材料の価格高騰もあり、価格転嫁ができない企業は業績が厳しくなってきている。
□	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置は全国的に解除されたが、企業側の様子には特に変化がみられない。
□	公認会計士	それ以外	・中堅・中小企業の業績は悪く、中堅・中小企業では給与、ボーナスが上がっていない。
□	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	それ以外	・客層に変化がない。この時期はメンテナンス需要がほとんどで新規購入がない。
□	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・近くの自動車部品関連企業でも本体で生産停止が起きているため苦戦しているようである。競合先でも生産も多くない。営業マンの訪問が少なく非常に対処が難しい。まだまだ当分は厳しい状態が続く。
▲	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量からみても、前年比で減少している。
▲	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置の解除というせつかくの明るい兆しに、商品値上げのニュースがあふれて水を差された形である。しばらく消費マインドの高まりは期待できない。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の拡大、原油高、原材料高、ロシアによるウクライナへの侵攻、さらには円安が急激に進み、これらの影響により景気はやや悪い。
▲	化学工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰により、プラスチック原料の価格が大幅に上がっている。
▲	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。原材料を始め仕入品、燃料の購入価格が上がっており、利益が出ない。
▲	金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・何とかそれなりの受注量であったのが、息切れの感じがする。原材料の価格高騰もあり、収益面で苦労することは間違いない。高騰の先が見えないという嘆きを、同業者間でも聞く。
▲	電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・前年後半にかけて半導体の供給不足から原材料価格の高騰につながり、一方で販売価格にはすぐには転嫁できないので、適正な利益を得られない状況である。
▲	輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・ロシア・ウクライナの戦争の影響を含め、いろいろな物が値上がりしている。特にガソリン価格の高騰は痛い。

	▲	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・東北の地震で完成車メーカーのラインストップや工場稼働停止の記事が出ていたが、その分生産台数が落ちるため、部品の消費量も下がる。
	▲	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・建設業としての受注は予定どおりだが、不動産業の分譲住宅に関しては、繁忙期といわれる3月でも集客、成約が伸びず、悪い。
	▲	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・日用雑貨の物量が、前年同期と比べ10%ほど減少している。生産財系の客においても、2～3か月前の生産が追い付かない状況から在庫調整に入るところが出てきている。
	▲	輸送業（エリア担当）	それ以外	・燃料費が上がっているが、配送単価は変わらない。
	×	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国発の物流荷動きの停滞、自動車生産の低迷や国際情勢の悪化による様子見で、発注や見積り活動にならない状況が続いている。仕事量も見積量も通常の年度末よりは明らかに30%以上落ちている。
	×	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・ロシア・ウクライナ戦争の影響でロシア向けの輸出がばたっと止まってしまい、景気が悪くなる方向に進んでいる。
雇用 関連  (東海)	◎	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の企業においては、採用意欲が高まっている。
	○	人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・主に製造業のなかで、外国人の入国規制が緩和されたことで人手不足の歯止めが期待が高まっている。しかし、自動車産業を始め製造業では部品の供給不足に加え、ウクライナ情勢の影響による原油高が景気回復の障害となっている。
	○	人材派遣会社（企画統括）	求人数の動き	・今年に入り求人数が増加傾向に転じ、前年同期比を上回る水準にある。
	○	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・主要客の自動車メーカーで、4月業務開始の派遣募集について数件の契約開始が決まった。また、5月業務開始の派遣募集も前月ほどではないが何件か届いている。
	○	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣求人数は3か月前比、前年比共に上回り、回復基調にある。
	○	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・年度末という事情はあるが、営業広告は回復傾向にある。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増減が、新規求人数とは連動しづらくなっており、有効求人数は新型コロナウイルス感染拡大前に近づいてきている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月と比べ増加傾向で、雇用情勢は改善している。製造業の主要業種である輸送用機械器具製造業の求人数は、半導体等の部品供給不足がおおむね改善し回復基調にあることから、前年同月と比べ増加が続いている。全業種の全体での有効求人倍率も、前年7月から1倍台で推移し好調を維持している。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に増加傾向にある。卸売業、小売業や宿泊・飲食サービスでも増加傾向にある。
	○	職業安定所（次長）	求人数の動き	・有効求人数はほぼ全ての職種で前年同月を上回っており、おおむねコロナ禍の影響が出始める前の水準となっている。
	□	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・特に変化はない。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたが、現状では何も変わらない。
		□	アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子



□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・全体的に景気は停滞したままであるが、久しぶりに年度末の予算消的な良い動きもあった。一方、新型コロナウイルスに続きウクライナ問題による先行きの不透明感で企業活動は慎重なままで、大きな変化はない状況である。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・年度末を迎え求人側の採用意欲も高まり、採用決定数が順調に推移している。
▲	*	*	*
×	—	—	—